

2019. 11. 23

畑 啓之

ユーグレナも赤字に バイオジェット燃料の理想と現実には大きなギャップがある？

日本経済新聞に小さな記事が載った。事業が順調であるときには素晴らしい技術としてもてはやされるが、一旦変調をきたすと世間の風は冷たいものである。バイオジェット燃料に未来はあるのだろうか？

日本経済新聞 2019.11.23

資本準備金を
96億円取り崩し
ユーグレナ
ユーグレナは22日、資本準備金を96億円取り崩すと発表した。その他資本剰余金に振り替えることにより、利益剰余金の欠損を解消する。

例えば次のような希望に満ちたサイトが見つかる。タイトル中の「危機感」は、開発したバイオジェット燃料の使用義務を国が航空会社に課すということのようにも読み取れる。

「ミドリムシで飛ぶ飛行機」計画責任者のユーグレナ永田氏が明かす危機感。日本は未だバイオ燃料後進国のままなのか

<https://finders.me/articles.php?id=682>

昨年11月、ユーグレナは日本初の国産バイオジェット燃料、バイオディーゼル燃料の製造実証プラントを完成させた。2019年夏にはそこで生産された次世代バイオディーゼル燃料の供給を開始、東京オリンピックが開催される2020年にはバイオジェット燃料での有償飛行を実現させ、普及を推進していく。

バイオ燃料とは、植物などのバイオマスから精製する燃料を指す。石油などの化石燃料に代替できる存在として注目を集めており、ユーグレナは自社生産した微細藻類（ミドリムシ）および廃食油を原料とするバイオ燃料の研究を進めている。

バイオ燃料の製造コストはリッターあたり100円以下にできるとわかっているんですよ。今のコストは原料が70円で、精製コストが9,930円。合計で1万円ぐらいという感じで、石油由来のジェット燃料の約100倍です。でも製油所自体はすでに世界中にあって、導入が進めば規模の経済で精製コストが20円以下まで安くなるとわかっているんです。確信があるから設備投資ができていますし、他社や自治体も協力してくれているんです。

この確信の基、ユーグレナはバイオジェット燃料製造の実証プラントを建設し、その費用を一括償却した。（営業損益は74億6000万円の大赤字を計上。この赤字のうち63億7000万円は、バイオ燃料製造実証プラントの建設に関わる費用を一括で計上したもの）。この償却のために今回の新聞記事で報道された方法が採られた。詳しくはつぎのユーグレナのホームページにある。

ユーグレナのホームページ 2019.11.22

1. 目的

現在生じている繰越利益剰余金の欠損を填補し財務体質の健全化を図ることを目的としております。

2. 資本準備金の額の減少

(1) 減少する資本準備金の額

2019年9月30日現在の資本準備金 11,880,107,432 円のうち 9,655,863,592 円を減少し、2,224,243,840 円といたします。

(2) 資本準備金の額の減少の方法

会社法第 448 条第 1 項の規定に基づき、資本準備金の額を減少し、減少額 9,655,863,592 円をその他資本剰余金に振り替えます。

3. 剰余金の処分

(1) 減少する剰余金の額

その他資本剰余金 9,655,863,592 円

(2) 増加する剰余金の額

繰越利益剰余金 9,655,863,592 円

(3) 剰余金の処分の方法

会社法第 452 条の規定に基づき、上記 2. の資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、当該減少により増加するその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替え、2019年9月30日現在の繰越損失 9,655,863,592 円 (86.6 億円) を全額解消する予定です。これにより、繰越利益剰余金は 0 円となる予定です。

ユーグレナの思惑は「精製コストが規模の経済で 20 円まで安くなる」である。この思惑が外れれば、バイオジェット燃料は世に出ることはない。思惑が外れ、バイオジェット燃料価格が高止まりした場合、ガソリンへのバイオアルコール混入義務と同じように、石油由来のジェット燃料にバイオジェット燃料を混じることが義務化される日が来るのだろうか。その場合でも、手を振って歩いているバイオアルコールのように、製造原価と製造時の二酸化炭素排出量が不明瞭である、というようなことはないようにしなくてはならない。バイオジェット燃料の本来の目的は大気中に放出される二酸化炭素の量を減少させることにあるのだからそれらのデータの開示義務がある。

https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/H30FY/000306.pdf

これまで我が国では、バイオ燃料導入における制度整備を行うとともに、石油精製業者に対するバイオ燃料の導入目標量を設定してきた。

参考情報

基本情報

決算	9月
設立	2005.8
上場	2012.12
特色	微細藻ミドリムシを活用した機能性食品、化粧品を販売。 <u>バイオジェット燃料の商業化に意欲</u>
連結事業	ヘルスケア100(0)、エネルギー・環境0(-3246)<18・9>
業種コード	3050
業種名	食料品
費用減	ヘルスケア増加の会社計画は不発。 <u>バイオ燃料実証プラント投資64億円一括償却で営業赤字</u> 。20年9月期は直販定期購買者減少は底打つかヘルスケア回復まで限定的。また前期の巨額償却消え黒字浮上。
まだ先	高成長のカギ握る費用対効果高い広告宣伝手法は来期も検証継続、広告費積極投下を模索。排ガス等使うミドリムシ海外培養実証事業で伊藤忠商事と提携。
本社	108-0014東京都港区芝5-29-11G-BASE田町
電話番号	TEL03-3453-4907
	【中央研究所】横浜市鶴見区小野75-1 LVP1号館【生産技術研究所】沖縄県石垣市白保287-14
従業員	<19.3>連421名 単209名(37.7歳)[年]578万円
業種	バイオテクノロジー 時価総額順位 6/39社
証券	[上]東京[幹](主)日興(副)野村,みずほ,藍澤,香川[名]三菱UF信[監]トーマツ
銀行	三井住友,みずほ
URL	https://www.euglena.jp/
株式	7/31 92,928千株 時価総額 801 億円
トップの実績	(社)出雲充(2005.8)時価総額7.31倍(1.79倍)営業益 赤字化
四半期進捗率	3期平均80.2%* 今期一%(一pt)
仕入先	三協,アビ,日本コルマー
販売先	一般顧客,伊藤忠商事,武田CH
比較会社	2385 総医研HD,4925 ハーバー研

業績

【業績】	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)	【配当】	配当金(円)
連16.9	11,103	693	944	673	8.2	0	14.9	0
連17.9	13,886	950	1,207	785	9.4	0	15.9	0
連18.9	15,174	-1,379	-1,096	-1,252	-14.7	0	16.9	0
連19.9予	14,500	-6,500	-6,000	-6,200	-66.8	0	17.9	0
連20.9予	15,300	500	800	500	5.4	0	18.9	0
連18.10~3	6,919	-6,523	-6,356	-6,456	-71.6	0	19.9予	0
連19.10~3予	7,300	200	50	0	0.0	0	20.9予	0
連17.10~6	11,136	-1,516	-1,260	-1,365	-16.1		予想配当 利回	—%
連18.10~6	10,445	-6,707	-6,358	-6,537	-72.0		BPS(円)<連19.6>	
会19.9予	16,500	-6,793	-6,373	-6,673	-	(18.11.7)	151.6	(185.4)